

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520493

研究課題名(和文) 南琉球方言におけるベシ由来形の記述的研究

研究課題名(英文) The Study of Beshi-related Derivates in Ryukyuan Dialects

研究代表者

金田 章宏 (KANEDA, Akihiro)

千葉大学・国際教育センター・教授

研究者番号：70214476

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：南琉球方言にみられるbe:やbja:は、東日本方言の推量や意志、勧誘にみられるべーなどと同様、古代語のベシに由来するものである。その分布は宮古地域を中心に、八重山地域では西表島にしかみられないという、興味深い分布である。その文法的な意味は地域によって差があるものの、基本的に推量、意志、勧誘のなかにおさまる。また、勧誘の意味については、宮古方言地域のなかで、北部にはその使用がみとめられるが、南部にはないことを確認した。これが古代語のベシに由来するものであることを確認したことで、南琉球諸方言におけるベシ由来形の存在はこの形式の周囲分布を意味するもので、日本語史研究にとっても大きな意味をもつ。

研究成果の概要(英文)：The modal suffix be: (bja:, be:m, pe:m, bja:ng, biraN), observed in a number of Ryukyu dialects in the Miyako region and in the western part of the Iriomote Island in the Yaeyama region, can be traced back to the Old Japanese beshi, and corresponds to the suffix be: and its variations, which are common in the dialects of eastern Japan. Despite local differences (e.g. the hortative use of be:/bja: is only found in the north of Miyako, but not in the south) it shows great similarities to the be: suffix in the dialects of eastern Japan in that it can have a presumptive, volitional or hortative meaning. Its relationship to the Old Japanese beshi both in the dialects of eastern Japan and Ryukyu supports Kunio Yanagita's "ripple pattern theory" of dialect development, whereby grammatical forms and vocabulary encountered on the peripherals belong to the oldest language layer. These findings are not only significant for linguistic, but also for historical studies.

研究分野：日本語学

キーワード：ベシ由来形 南琉球方言 推量、意志、勧誘 周囲分布

1. 研究開始当初の背景

東日本方言の広い地域で意志・推量に使用されるペーなど、古代語のベシに由来する語形は、これまで琉球諸方言はもちろん西日本諸方言には基本的に存在しないとされていた。

琉球諸方言のなかで、ここで対象にしようとする語形、形態素を積極的にとりあげた論考はこれまでのところみあたらない。ネフスキー(1926)が、宮古島平良のアヤゴ(歌謡全般をさす)の例をあげながら、そこに使用されているある形態素について「日本語の「べし」と同じ語根の言葉らしい」としているのが、古代語の意志・推量ベシとの関連を指摘した唯一のものである。しかし、その後の研究においては、この問題にまったくふれられることがなかった。

その一方で、2005年に研究代表者である金田によって西表方言のなかに意志・推量をあらわす文にペーをふくむ語形が確認された。その後、西表島で詳細な調査をすすめるなか、上記のネフスキーの記述を知り、この語形が古代語ベシに由来する語形の周囲分布である可能性がでてきたことから、この研究が開始されることになった。

2. 研究の目的

本研究では、南琉球方言における意志・推量表現について、とりわけ古代語ベシに由来する語形とその意味と用法を中心に、総合的に記述することを目的とする。対象とする地域は南琉球地方の宮古諸島と八重山諸島である。

宮古諸島については文献などからベシ由来形とみられる語形の使用が確認できているが、宮古諸島の北側に位置する沖縄本島周辺の方言については、その方言の何人かの研究者からの私信などによって、ベシ由来形の使用はないとされているので、当面の対象とはしなかった。

また、琉球諸方言のなかでは研究の進んでいる北琉球方言に比べて、宮古・八重山の南琉球方言はとくに文法を中心とする研究が遅れており、方言話者が激減しているなか、早急な調査研究がもてられている。そこで本研究ではこれらの地域の意志・推量表現について、現地調査で得られた豊富な資料をもとに、ベシ由来形を中心に総合的に記述するものである。

本研究は、東北方言、八丈方言、琉球方言をむすぶ日本語外輪方言の文法現象に周囲分布的解釈の可能性を見いだそうとする第一歩である。

3. 研究の方法

事前の西表方言調査の成果をもとに作成した調査票を使用して、宮古・八重山地域の約20カ所に及ぶ調査地点で聞き取り調査を実施し、調査結果を分析した。

聞き取り調査に使用した例文は動詞述語、

形容詞述語、名詞述語をあわせて90例ほどである。

聞き取り調査やりかたについては、その土地、その島の生え抜きのかたにその地で、というのが中心であるが、とくに八重山諸方言については、波照間島や小浜島などの離島で主として生活した後に石垣市に移住したかたも含まれる。年齢は60歳代から90歳代で、中心は80歳代である。

聞き取り調査に要した時間であるが、短いかたで2時間程度、長いかたで8時間程度である。

4. 研究成果

南琉球方言にみられる *be:* や *bja:* は、東日本方言の推量や意志、勧誘にみられるペーなどと同様に、古代語のベシに由来するものであって、その分布は宮古諸島では多良間島をふくむ全域にわたり、八重山地域では西表島にしかみられないという、たいへん興味深い分布であることがわかった。

具体的な調査地点は、宮古諸島の北のほうから順に、池間島、大神島、宮古島・久松地区、同・野原地区、同・新里地区、来間島、多良間島、そして八重山諸島の石垣島(四箇)、西表島・祖納地区、同・干立地区、同・船浮地区、鳩間島、小浜島、新城島、竹富島、黒島、波照間島である。

このなかで当該形式の存在を確認できたのは、宮古諸島全域と八重山の西表島3地区だけである。

その文法的な意味は地域によって多少の差があるものの、基本的に推量、意志、勧誘のなかにおさまる。また、勧誘の意味については、宮古方言地域のなかで、北部にはその使用がみとめられるが、南部にはないことを確認した。

以下に具体例をあげる。

宮古諸島池間島方言の推量では、きょうは太郎は酒を飲むと思うよ。 *kju:]=ja [taro:]=ja s!aki=u [nuN]=bja:n [i:]*.

うたがいで、太郎は酒を飲むかなあ。 *ta[ro:]=ja s!a[kju:]=gja: {nu[madi=bja:n [i:] / [nuN=bja:n [i:] / [nuNdu su=bja:n [i:].}*

意志では、のどがかわいたからお茶を飲もうかねえ。 *nu[du=nu ka:ki] uiba [cja:=ju] numadi(=bja:n [i:]*.

勧誘では、これをいっしょに飲もうかねえ。 *uru: h!itumi numadi=bja:n i:]* など。

おなじく大神島方言の推量では、酒を飲まないんじゃないかな。 *saki:]=[pa:] numaN=pe:m.*

うたがいで、あいつはきょうは酒を飲むかなあ。 *kare: ki:=ja saki:]=[pa:] num=tu s]=pe:m.*

意志では、ビールを飲もうかな、酒を飲もうかな。 *pi:ru:] numa[ti]=pe:m. [saki:] numa[ti]=pe:m.*

勧誘では、あなた、ビールを飲もうか。酒を飲もうか。 *vva pi:ru: numa]ti. [saki:*

numa]ti.など。

宮古島久松方言の推量では、きょうはたぶん太郎もビールを飲むと思うよ。kju:]=ja [tabuN] taro:=[mai] bi:ru:=[du num]=bja:] ja:.

うたがいで、太郎は(酒を)飲むかなあ。[taro:] =ja [s!akju:] =ba [num] gamata=be:] ja: / ta[ro:] =ja [num] =be:] ja:.

意志では、ビールを飲もうかな、泡盛を飲もうかな。bi:ru:] nu[madi=be:] ja: s!aki=u] nu[madi=be:] ja:などで、勧誘の用法はみられない。

宮古島野原方言の推量では、かれはきのうは飲まなかったと思うよ。kare ksnu:=ja numaddam=bja:] ja:.

うたがいで、太郎はきょうは飲むかなあ。taro:=ja kju:=ja num=du s=bja:] ja:.

意志では、きょうはなにを飲もうかな、ビールを飲もうかな、泡盛を飲もうかな。kju:=ja no:=ju=ga numadi=gara ja:, bi:ru:] numadi=bja:] saki=u numadi=bja:]などで、勧誘の用法はみられない。

宮古島新里方言の推量では、太郎はこの酒を飲むだろうか？ taro:=ja kunu sakju:=ba num=du s=pja:] ja:?

うたがいで、きょうは太郎も酒を飲むかなあ。kju:=ja taro:=mai sakju:=ba nu[m] ga[mata (aram)=bja:] ja:.

意志では、きょうはなにを飲もうかな、ビールを飲もうかな、泡盛を飲もうかな。kju:=ja nou=ju=ga numadi=gara ja:, bi:ru:]=na numadi=bja:] ja:, saki=u]=na numadi=bja:] ja:などで、勧誘の用法はみられない。

宮古諸島来間島方言の推量では、太郎はきのう酒を飲んだと思うよ。taro:] =ja [cuno:] s!a[ki] =u=ba [numi=du] =bja:] [i:.

うたがいで、太郎はきょうは酒を飲むかなあ。taro:] =ja [kju:] =ja s!a[ki] =u=ba [nuM=du su] =bja:] [i:.

意志では、泡盛を飲もうかな、ビールを飲もうかな。s!ake=ju nu[madi=bja:] [i: bi:] ru:] [nu] madi=bja:] [i:などで、勧誘の用法はみられない。

多良間島方言の推量では、太郎はだれかと酒を飲んでいるんだろう。taro:=ja taugara=tu sjaki=u numi:] =be:] m}.

うたがいで、太郎はきょうも酒を飲まないかなあ。taro:=ja kju:=mai sjaki=u numan=be:] m}.

意志では、泡盛を飲もうかな、ビールを飲もうかな。sjaki=u numam:=ge:rai, bi:ru:] numam:=ge:rai / sjaki-u numam:=be:] m}, bi:ru:] numam:=be:] m}などで、勧誘の用法はみられない。

また、八重山諸島のうち、西表島祖納方言の推量では、それなら、あした太郎来るんじゃないかな。a[kal] ra a[ca taro:] [ki:] su]=[be:].

うたがいで、あした太郎来ないんじゃない

いかな。a[ca taro:] [kuN=be:].

意志では、ビール飲もうかな、泡盛飲もうかな。bi:ru nu[mubel:] s!aki=du nu[mubel:]などで、勧誘の用法はみられない。

西表島船浮方言の推量では、気分がいいから飲むんじゃないかな。k!imu] masiburi[ki] nu[mi] su]=[be:].

うたがいで、ここで飲んでいるんじゃない

いかな。kwaN=du nu[mi] bu]=[be:].

意志では、どれがいいかな。これを飲もうかな。あれを飲もうかな。doro]=[du] masiq=ka [ja:] k!uri nu[mu=be:] k!ari(=du) nu[mu=be:].

勧誘では、そうだねえ、いっしょに飲もうかねえ。alsi]=[ra:] maNzuN nu[mu=be:]。(先手発言ではなく、それをうけた発言にあらわれる。)など。

南琉球方言にみられる be:]や bja:]が古代語のベシに由来するものであることが確認されたということは、東日本諸方言とともに、この形式の周囲分布を意味するものであり、日本語史研究にとっても大きな意味をもつことになる。

なお、西表島以外の八重山地区では、沖縄本島などと同様に、主として形式名詞ハズとの組み合わせを元にした語形が推量の用法に使用され、ノママ型の語形が意志の用法に使用される。

また、奄美諸島の喜界島などに推量をあらわす要素としてペーなどが確認されたが、これはベシに由来するものではなく、アンバイ(案配)に由来するものであることがわかっている。

現段階で公開された論文等の内容は、ベシ由来形を中心としたものにかざられているが、今回の調査では述語形式のモダリティーを広く取り上げているので、今後さらに分析をすすめることによって、ベシ由来形をふくむ述語モダリティーについて記述し、公開する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

1. 金田章宏・下地賀代子「宮古諸方言におけるベシ由来形の使用実態」『琉球の方言』39号法政大学沖縄文化研究所 pp.141-164(査読付)

〔学会発表〕(計 2件)

1. 金田章宏・下地賀代子「宮古諸方言におけるベシ由来形の使用実態」沖縄言語研究センター定例研究会(2014.07.05)琉球大学法文学部(沖縄県中頭郡西原町)

2. 金田章宏「南琉球諸方言におけるベシ由

来形の分布と圏論的解釈」中日理論言語学
研究会（2015.04.26）同志社大学大阪サテラ
イト・オフィス（大阪府大阪市）

〔図書〕（計 0件）

〔産業財産権〕
出願状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
日本語学 金田研究室
<http://www.akaneisc.com/Default.aspx>
（発表論文をPDFで公開）

6. 研究組織

(1)研究代表者

金田 章宏 (KANEDA, Akihiro)
千葉大学・国際教育センター・教授
研究者番号：70214476

(2)研究分担者

下地 賀代子 (SHIMOJI, Kayoko)
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授
研究者番号：40586517

(3)連携研究者

()

研究者番号：